

シンガポール労働安全衛生法(法律 354 号)に基づく
労働安全衛生規則(足場 2011 年) [抄]

- 第一条** 規則の施行日
2011年9月10日
- 第五条** 足場作業者
足場作業者は、長官(コミッシュナー)が指定する職業訓練コースにおいて足場作業者としての資格を有すること
足場作業者でなければ、足場に関しその設置、作業、組立、組み直し、やり替え(部品交換)、維持(メンテナンス)、修理及び解体することは出来ない
- 第六条** 足場監督員
関係者は、前条の作業をする前に、足場監督員を任命しなければならない
・足場監督員の資格
(1) 足場監督員としての国家の訓練コースを修了している、及び
(2) 足場監督員として十分信頼がおける人
- 第二十六条** 足場検査
[作業請負人は作業現場の足場が足場監督員の検査を受けなければ使用されない]ということを確認した上でなければ足場を設置したり、その足場で作業することは出来ない
※足場監督員の検査時期
1. 足場の設置、組立終了時
2. 前回の検査から7日以内
3. 足場の強度・安定性などに影響を与えると思える悪天候時
※検査記録の作成及び公表
・(長官が定める詳細項目について検査結果を登録することにより)検査結果を公開
・現場作業請負人に対し、検査結果を提供
※現場作業請負人の義務
検査記録を作業現場に保存すること、及び労働基準監督官の要請に応じ検査結果を提供すること
※適用除外
架台足場又は落下地点まで2m以下の足場
※罰則
検査記録保存及び提供に違反したものは、2,000 シンガポールドル(約 18 万円)以下の罰金
- 第二十七条** 検査済証の貼付
足場監督員は、検査を終了後直ちにラベル又は公告を現場に貼り付けることによりその足場が安全かどうかを公示しなければならない
※ラベル等の内容
作業現場の作業員に容易に理解できる様式で且つ全ての指定検査ポイントに表示すること
ラベル等が貼られていない現場での作業は禁止される

シンガポール「労働安全衛生規則（足場 2011 年）」の背景と経緯

【要旨】

- 1 シンガポールの建設現場は、多くを周辺国からの出稼ぎ労働者に頼っている。多様、低賃金、非熟練の労働者からなる現場では、労働災害が頻発。高層建設が多いこともあり、足場からの墜落をはじめとする高所転落事故が最も多い。
- 2 2004 年に重大な労働災害が 3 件相次ぎ、社会的に注目を集めた。
- 3 政府は労働安全の改善に取り組むため人的資源省の職員を欧州へ派遣し、先進事例を調査。欧州の法制度をモデルとして、2006 年に労働安全衛生法を施行。
- 4 その後も労働災害は多発したため、さらなる対策の必要性を当局が認識。2011 年に労働安全衛生規則（足場 2011 年）を施行。
※ 2010 年に発生した死亡災害のうち、高所からの転落が 33%（55 件中 18 件）と最も多い。
- 5 当地の日系ゼネコンでは、「コスト的には少し負担にはなるが、高所作業者の安全を確保するためのもので、特段不合理なものとは考えていない」、と受け止めている模様で、実態として日本との大差はない、との見方もある。

1 多様、低賃金、非熟練の外国人労働者に頼る建設現場

建設現場で働く労働者は、その多くを外国人に頼っている。正確な統計は公表されていないが、当地のゼネコンによれば中国人、インド人、スリランカ人、バングラデシュ人、タイ人等が目立つ。賃金は低く、労働生産性は低い。最新技術の導入も進んでいない。

2002 年から 4 年間に、シンガポール国内の工事現場で発生した死亡災害のうち 13%が足場からの墜落をはじめとする高所からの転落に起因しており最も多い。同じく、造船所で起きた労働災害のうち 21%が高所からの転落に起因しており最も多い。

2 相次ぐ重大な労働災害の発生と社会的注目

2004 年、相次いで発生した 3 件の重大な労働災害がシンガポール政府に警鐘となり、社会的にも労働安全への関心が高まった。

- (1) 2004 年 4 月 20 日、建設中の高速道路（ニコル・ハイウェイ）が倒壊。労働者 4 名が死亡し、3 名が負傷。
- (2) 2004 年 4 月 29 日、情報通信関連産業のハブとして建設中の建物（フエーションポリス）の工事現場で、鉄骨構造が崩壊。労働者 2 名が死亡し、29 名が負傷。
- (3) 2004 年 5 月、ケッペル造船所で停泊中の貨物船で火事が発生。7 名が死亡し、3 名が負傷。

3 シンガポール政府の対応

政府は労働安全の改善に取り組むため、人的資源省の職員をイギリス、ドイツ、フランス、スウェーデン等の先進国へ派遣し、各国が実施する労働安全の法制度や取り組み等を調査。

その調査結果を踏まえ、2006年に「シンガポール労働安全衛生法」を施行。その後、「労働安全衛生規則（足場 2011年）」を含む25本もの規則が施行され、労働安全の改善に対するシンガポール政府の真摯さが伺われる。

4 「労働安全衛生規則（足場 2011年）」

労働安全衛生法施行後も足場に起因する事故は多発。2010年に発生した死亡災害のうち33%（55件中18件）が高所からの転落。

政府もその深刻さを認識し、死亡災害が少ない欧州の先進事例において監督者による足場検査制度が導入されていることを踏まえ、類似の制度をいち早くシンガポールに導入すべく「労働安全衛生規則（足場 2011年）」を施行した。

【シンガポールにおける労働災害件数の推移】 (件)

年	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
労災	3,179	3,283	3,399	9,261	10,018	11,072	10,834	10,319	10,121
うち死亡	55	51	44	62	63	67	70	55	61

5 当地の日系ゼネコン実務担当者による受け止め

コスト的には少し負担にはなるが、高所作業者の安全を確保するためのもので、特段不合理なものとは考えていない、と受け止めている模様。

足場の確認までも義務付けした厳格な検査制度であるが、日本においても安全講習を受けた作業主任者が足場の設置から解体までを請負業者として担っており、建設現場の実態としては大きな差異はないとの見方もある。

【出典】

シンガポール人的資源省「職場安全衛生報告書 2010年」

シンガポール職場安全衛生評議会「足場の安全基準について」

現地紙ストレートタイムズ 2017年8月10日号「労働安全の今後の展望」

小泉博義（鹿島建設アジア社長（当時））「シンガポールの戦略的建設行政」（2010年）

厚生労働省「東南アジア地域にみる厚生労働施策の概要と最近の動向（シンガポール）」（2013年）

在シンガポール日本国大使館員による、当地日系ゼネコン（複数）への聴き取り

【参考】

正式に当局への調査を行う場合、人的資源省傘下の職場安全衛生評議会（※）に問い合わせを行うこととなるが、在シンガポール日本国大使館の経験上、質問後回答を得られたとしても2週間以上を要すると見込まれる。

※ 職場安全衛生評議会（WSH）：Workplace Safety and Health Council（労働安全衛生規則の改正を担う部局で研究所も兼ねている）

WORKPLACE SAFETY AND HEALTH ACT
(CHAPTER 354A)
WORKPLACE SAFETY AND HEALTH
(SCAFFOLDS) REGULATIONS 2011

Citation and commencement

1. These Regulations may be cited as the Workplace Safety and Health (Scaffolds) Regulations 2011 and shall come into operation on 10th September 2011.

Scaffold erectors

5. It shall be the duty of the responsible person to ensure that no person is involved in the construction, erection, installation, re-positioning, alteration, maintenance, repair or dismantling of a scaffold in a workplace unless he has successfully completed a training course acceptable to the Commissioner, to equip him to perform the work of a scaffold erector.

Scaffold supervisor

6.—(1) It shall be the duty of the responsible person to appoint a scaffold supervisor before any construction, erection, installation, re-positioning, alteration, maintenance, repair or dismantling of a scaffold in a workplace.

(2) The responsible person shall not appoint any person as a scaffold supervisor unless the person is one —

(a) who has successfully completed a training course acceptable to the Commissioner, to equip him to be a scaffold supervisor; and

(b) whom the responsible person reasonably believes is competent to perform the functions and duties of a scaffold supervisor.

Inspection of scaffolds

26.—(1) Subject to paragraph (4), it shall be the duty of the occupier of a workplace in which a scaffold is constructed, erected or installed to ensure that no scaffold is used unless it has been inspected by a scaffold supervisor —

(a) upon completion of its construction, erection or installation, as the case may be;

(b) thereafter, at intervals of not more than 7 days immediately following the date of the last inspection by the scaffold supervisor; and

(c) after exposure to weather conditions likely to have affected its strength or stability or to have displaced any part.

(2) It shall be the duty of the scaffold supervisor to —

(a) enter the results of every inspection referred to in paragraph (1) into a register containing such details as may be required by the Commissioner;
and

(b) provide the register to the occupier of the workplace.

Singapore Statutes Online Current version as at 04 May 2018 PDF created date on: 04 May 2018

(3) Subject to paragraph (4), it shall be the duty of the occupier of the workplace in which a scaffold is constructed, erected or installed to —

(a) keep the register referred to in paragraph (2) at the workplace; and

(b) produce the register for inspection upon request by an inspector.

(4) This regulation shall not apply to —

(a) a trestle scaffold; or

(b) a scaffold, from no part of which a person is liable to fall more than 2 metres.

(5) Any person who contravenes paragraph (3) shall be guilty of an offence and shall be liable on conviction to a fine not exceeding \$2,000.

Labelling of scaffolds after inspection

27.—(1) It shall be the duty of the scaffold supervisor who carries out the inspection of a scaffold under regulation 26 to, immediately after such inspection, display a notice or label indicating whether the scaffold is safe for use or otherwise.

(2) The notice or label referred to in paragraph (1) shall —

(a) be in a form readily understood by the persons employed in the workplace;
and

(b) be displayed at every designated access point.

(3) Subject to paragraph (4), it shall be the duty of —

(a) the employer of any person who uses or is to use any scaffold in a workplace to which regulation 26 applies; or

(b) the principal under whose direction any person uses or is to use any scaffold in a workplace to which regulation 26 applies,

to ensure that the person does not use the scaffold unless a notice or label is displayed at

the designated access point indicating that the scaffold is safe for use.

(4) Paragraph (3) shall not apply in relation to a person who is —

(a) a scaffold supervisor carrying out any inspection of a scaffold under regulation 26; or

(b) a scaffold erector carrying out the repair of a scaffold under regulation 28.